

美国・美しい海づくり協議会

(積丹町)

◆はじめに

積丹ブルーで有名な美国の海は、ダイビングスポットとして人気がある一方、深刻な磯焼けの問題を抱えています。しかし、漁業者の減少・高齢化等の影響から地元漁業者だけでは磯焼け対策を行っていくことが難しくなっていて、今後、ますます藻場の減少や藻場機能の低下が進行することが懸念されています。

こうした現状を打開するため、漁業者とダイバーが海面利用についてお互いに歩み寄り、理解を深め、磯焼け対策や藻場造成に関して協働体制で実施する活動を平成21年から始めています。



◆おもな活動

磯焼けの対策として海藻食害ウニの除去作業などの藻場保全活動を、地元漁業者とレジャーダイバーの協働により実施し、魚類の産卵場等様々な機能を有する藻場の回復に向けた取り組みを行っています。

また、観光客向けのウニむき体験ツアーの実施、町内外の子供たちを対象としたシュノーケリング体験や水産教室の開催、森・川・海の栄養循環に着目した環境保全活動(植樹活動)など、観光業との連携や後継世代に向けた地域振興に取り組んでいます。

◆ここが自慢

【海藻の森がある、美しい海づくり】

活動の成果により、これまで磯焼け状態にあった箇所が、ウニ等浅海資源の新たな漁場として活用出来るようになったほか、近年、ほとんど見られなかったホンダワラ(魚類の産卵場所となる海藻の一種)の幼体が確認されるようになり、藻場に集まる多くの魚の様子をたくさんのダイバーが楽しんでいます。



- 代表者: 神 哲治さん / 設立: 2008年 / 会員: 67名
- 連絡先: 積丹郡積丹町大字美国町字船濶48番地5
- 電話: 0135-44-3382
- FAX: 0135-44-2125
- HP: <https://ja-jp.facebook.com/utsukushiiumipro>

北海道倶知安農業高等学校

(倶知安町)

◆はじめ

倶知安町の特産品であるじゃがいもは、約15%が規格外品となることから、倶知安農業高等学校ではその規格外じゃがいもを使って商品開発を行っている。平成16年にじゃがいもに酵素を加え、ペースト状にした「ポテトペースト」を地元企業と共同で開発し特許を取得、「ぽてぷりん」などを商品化して地元菓子店が販売しています。



◆おもな活動

平成25年からはこの「ポテトペースト」をさらに活用・普及させるため、本格的な商品開発に取り組み、添加物を一切使用しない安心安全なスポーツバー「NISEKO MONTE BAR」を完成させ、町内外で発売しています。

さらに、「ポテトペースト」を使ったドーナッツや人形焼きなどの販売会や食育も兼ねた交流会も実施し、「じゃがいもの付加価値向上とブランドの創造を通じた地域振興・活性化」に取り組んでいます。

このほか、規格外じゃがいもを細かくスライスし、牧草に混ぜ合わせ発酵させた「ポテトサイレージ」による牛の飼育や、校内で育てた和牛の肉を買い戻し、ハンバーグに加工し地域で販売したほか、牛の皮も活用して、野球グローブを作るなどポテトサイレージによる循環型農業にも取り組んでいます。



◆ここが自慢

【ポテトペーストを地域の産業に】

規格外品の活用に有用性を見出し取り組んできたことが、ポテトペースト普及の基盤と倶知安のブランド商品作りになり、企業の設立により新たな雇用を生み出すなど、地域を元気にする取り組みが出来ました。これからも地域との連携を深めながらグレードアップさせていきたいと考えています。



■代表者：鎌田一宏さん／設立：1941年／会員：86名

■連絡先：虻田郡倶知安町字旭15番地

■電話：0136-22-1148

■FAX：0136-22-2252

■HP：<http://www.kucchannougyou.hokkaido-c.ed.jp/>

寿都地域マリンビジョン協議会

(寿都町)

◆はじめ

地域に活力を取り戻すためには水産業を元気にすることが第一歩のため、観光協会、水産加工業組合、行政機関などとともに平成18年「寿都地域マリンビジョン協議会」を結成、水産業を核とした様々な地域おこしプロジェクトを展開し、これらの取組の一環として寿都町漁業協同組合が中心となって漁業体験学習を実施し、都市と漁村の交流を深めています。



◆おもな活動

平成15年から道内外の修学旅行生などを対象とした「漁業体験学習」を継続して実施、漁船乗船、水産加工場見学、ホッケの開きづくり、地引網体験など豊富なメニューで漁業の魅力を伝えています。

「漁業体験学習」はニーズが高く、希望する学校は口コミを中心に拡がり、受入生徒数は年々増加し、平成25年には寿都町人口の約7割に相当する2,300人、19校となりました。

また、中学校を対象とした「宿泊体験学習」では、町民宅への宿泊などを通じて地元の子供達・漁業者・町民とのふれあいの場となっており、お互いの地域の文化の発信などによる交流活動も盛んに行われています。

町の姿には観光地という派手さはないが、自然や地域の産業、そして地域の生活を肌で感じる体験が魅力となって、道内外の多くの学校に支持されています。



◆ここが自慢

【自然の風景、感動の体験、温かな出会い】

海や山といった自然から多くの恩恵を受けているありのままの地域の姿を資源として捉え、その素晴らしさを魅力として発信すること、それらを通じて町外から人を呼び込み、交流活動を生かして「元気な漁業・漁村づくり」を行っています。



■代表者:木村 親志さん／設立:2006年／会員:14名

■連絡先:寿都郡寿都町字大磯町20番地先
寿都町漁業協同組合

■電話:0136-62-2555

■FAX:0136-62-3603

■H P:<http://www.town.suttu.lg.jp/index.html>

おたる自然の村市民体験農園協議会

(小樽市)

◆はじめ

まだ市民農園整備促進法が施行されていない昭和60年、市民が土に親しみ、作物を栽培する喜びを通じて、農業への理解と農村集落との交流を深めようと、道内の市民農園の先駆として開設しました。

市民体験農園のほか、掘り取りもぎ取り農園、農産物の受託販売、自然の村の学童農園の管理などの活動を行っています。近年では、農業者の情報交換や交流の場としてグリーンツーリズムの中心的施設としての役割も担っています。



◆おもな活動

農園の運営は、農園利用方式により、市民や団体向けに家庭農園300区画、じゃがいも掘り取り及びとうもろこしのもぎ取り農園を各100区画を用意し、畑起こしなどを行うほか、散水用の水タンクや送迎バスも用意され、野菜の種まきから収穫までを体験できるよう提案しています。

農園の利用は5月下旬の開園式に始まり、7月上旬の栽培技術相談会、8月には直売所を開設、9月には収穫まつりや品評会、掘り取り、もぎとり農園開設と続き、農村地域に都市住民との交流の機会を設け、市民の農業への理解を深めて、地元農産物の消費拡大に結びつくよう期待されるとともに、高齢者の生きがいづくりや児童の教育にも大きな期待が寄せられています。



◆ここが自慢

【新鮮野菜を格安提供】

実りの秋を迎えると毎週日曜日には農園入口で「農産物直売所」が開かれて人気となります。午前7時の開店前から採れたての野菜を求め、多くの市民が行列をつくり、市価より2、3割安く買えるトマトやじゃがいも、とうもろこし、かぼちゃなどを買い求めています。



■代表者:若林 金吾さん/設立:1985年/会員:12名

■連絡先:小樽市 天狗山1丁目 国有林野4152林班
一般財団法人おたる自然の村公社

■電話:0134-25-1701

■FAX:0134-25-8120

■HP:<http://shizenomura.com/>

神恵内村魅力創造研究会

(神恵内村)

◆はじめ

平成24年6月、フェイスブックで地域の情報を発信して活性化へ繋げているある話を聞き、村内でフェイスブックを利用している数人が集まり、我々も情報発信によって神恵内を元気にしていこうと話し合いました。

はじめはフェイスブックの知識も浅く不慣れでしたが、自分たちの地元が元気であってほしいという共通点のもと、様々な意見が出され、「情報発信だけではなく、ひとつの団体を設立して地域を活性化していこう」と一致団結し活動が始まりました。



◆おもな活動

フェイスブックでの情報発信は、観光情報や特産品情報に加え、絶景・景勝情報、郷土料理情報など無限大にある村の魅力を1日も欠かすことなく更新しています。

新たなイベントでは、昨年5月に「前略道の駅から～春の神恵内魅力みせ鱒(マス)～」を初開催し、サクラマスを使用した郷土料理マスカレーやニシン・たけのこに昆布を加えた味噌煮(通称「たけのこ煮たやつ」)などを販売しイベントを盛り上げました。

8月には盆踊りと神恵内音頭を22年ぶりに復活させ、ビアガーデンを併設した「神恵内魅力まつり」を実施しました。

このほか、ファン感謝祭や他町村の有志団体や大学サークルとの交流会などを行い、神恵内村の若手有志が知恵を出し合い、「村の魅力の掘り起こしを通じた地域活性化」に取り組んでいます。



◆ここが自慢

【小さくてもキラリと光る村を目指して】

夕日がきれいに見える所、知る人ぞ知る釣りスポット、限られた季節だけ見られる絶景などなど神恵内村には、地元の私たちしか知りえない魅力がたくさんあります。

それをメンバーそれぞれが意識し探求し投稿することで、地元の私たちにとって当たり前のことが、地元以外の人から見たら面白いことが多くあることがわかりました。

きっと、まだまだあるはずと、まだ知らない故郷の魅力を今後も探し続け、知っていただくために発信していきます。



■代表者: 松本 遊さん / 設立: 2012年 / 会員: 23名

■連絡先: 古宇郡神恵内村大字神恵内村13-13
民宿きのえ荘内

■電話: 0135-76-5480

■FAX: 0135-76-5480

■HP: <http://facebook.com/kamoenaimiryokusouken>

北海道余市紅志高等学校農業クラブ

(余市町)

◆はじめ

余市紅志高等学校は、3校の再編によって平成22年4月に新設された総合学科の高校です。

農業クラブは旧余市高等学校園芸科時代から、草花、野菜、果樹、食品加工部門に分かれて専門的な学習に取り組んできましたが、平成25年度からは各部門が連携して全農業クラブ員で活動することで、「地域の生活環境の充実」に取り組んでいます。



◆おもな活動

余市町では、JR余市駅から役場までの街路1.3kmが「リタロード」と名付けられ、町のメインストリートとなっています。余市紅志高等学校では、沿道の景観整備を行うことで訪れる観光客の目を楽しませています。

また、JR余市駅前ロータリーに新たに花壇を造成し、町の玄関口にふさわしい環境整備活動を行いました。

このほか、「公共施設の花壇植栽」や「寄せ植えプランターの製作と装飾」、「町内外での花壇苗の即売会」などの活動を行うほか、「ワインに合ったスイーツ開発」や「果樹の剪定チップを活用したスモーク製品の研究」、「無添加の漬け物づくり」などにも取り組んでいます。



◆ここが自慢

【「フルーツ王国よいち」からのおもてなし】

道内有数の果樹産地として名高い余市町において、実習で育てた花壇苗を使いJR余市駅前ロータリー花壇の新設、町内各所への花壇植栽や装飾、花壇苗即売会や寄せ植えプランター講座の実施など、多彩な活動を通じて「フルーツ王国よいち」に彩りをもたらし、農村生活環境の充実が図られています。



■代表者：青木 秀司さん／設立：2010年／会員：52名

■連絡先：余市郡余市町沢町6丁目1

■電話：0135-23-3191

■FAX：0135-23-3192

■HP：<http://www.yoichikoshi.hokkaido-c.ed.jp/>